

## 令和元年度第3回大磯町総合計画審議会結果概要

○日時 令和2年3月26日(木) 午前10時から正午まで

○場所 大磯町役場本庁舎4階第2委員会室

○出席者(会長) 成田委員(学識経験者)

(委員) 山岡委員(学識経験者)、戸塚委員(農業委員会会長)、西ヶ谷委員(区長連絡協議会会長)、佐藤委員(商工会理事)、大倉委員(観光協会会長)、加藤委員(漁業協同組合組合長)、奥野委員(消防団団長)、鈴木委員(P T A連絡協議会会長)、小清水委員(中南信用金庫常勤理事)、名久井委員(株湘南ジャーナル社)、尾白委員(株トラウム代表取締役)、船瀬委員(公募町民)

○事務局 参事(政策担当)、政策課長、政策課担当職員

○議題 (1) 第五次総合計画について

(2) 大磯町第四次総合計画後期基本計画 + 大磯町人口ビジョン・総合戦略実施計画書【令和2年度】について

○会議記録

### 1. あいさつ

(会長より次のとおりあいさつ)

本日の議題の1点目は、第五次総合計画の基本構想素案について、第四次総合計画との比較や町の考え方について、事務局より説明がある。2点目は、令和2年度の大磯町第四次総合計画後期基本計画兼人口ビジョン・総合戦略実施計画が策定されたことと事務局より報告がある。委員の皆さんにおいては、忌憚のない意見等をお願いしたい。

### 2. 議事

(1) 第五次総合計画について

資料1-1から1-5に基づき事務局から説明を行い、次のとおり意見提案及び質疑応答が行われた。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染予防及び拡大防止を図るため、審議時間を短縮することとし、別途委員からの意見を受け付け、次回会議において報告することとした。

◎ 参考資料3のまちづくり基本計画について、次期計画はどのくらいの検討段階にあるのか。(会長)

- まちづくり基本計画には、町内全体に係る全体構想と町内を区切った地域別構想があり、現在は全体構想の検討を進めている段階にあり、町外部に向けて出すための準備を進めている段階にある。(事務局)
- ◎ 参考資料3にある内容がそのまま総合計画基本構想に記載されるのか。(会長)
- そのままではなく、総合計画内においては、土地利用の全体的な考え方を示し、詳細については、まちづくり基本計画につながるように記載したいと考えている。(事務局)
  
- ◎ 参考資料3の「3) 骨格的な交通網」について、『(仮称)湘南新道』とあるが、かなり昔からこの単語を聞いているが、実際に整備されるのか。(委員)
- 平塚の国道129号周辺までは整備が終了しているが、現時点では町内部分の整備見通しは立っていない状況にある。(事務局)
- ◎ 30年以上前から計画内にあるように感じる。当時とは時勢が異なっており、記載しているだけでは意味がないと考える。(委員)
- 担当課において次期まちづくり基本計画を策定中であり、総合計画と整合性を取りながら、進めたいと考えている。担当課にいただいた内容を伝え、計画を検討していく。(事務局)
  
- ◎ 資料1-1の付属資料である各種団体との意見交換会の結果概要内の意見にもあるように、日本において人口減少は避けられないので、人口が減るなりの対応策を考える必要があると考える。また、将来の問題は町の歳入減であり、人口の推計のみでなく、将来的に人口が何人減って、税金がどれほど減少するかを示し、様々な計画の優先順位を決める必要があると考える。(委員)
- 税収が減っていくと町の予算が縮小していき、町民の皆さんへのサービスの低下につながっていく。人口の減少を少しでも抑え、税収を確保することで現在の行政サービスを継続することも町としての役割であると考えている。(事務局)
- ◎ 合計特殊出生率が平成29年度に1.5を超えてきた要因は何と分析するか。(会長)
- 特定の事業を実施したため合計特殊出生率が上昇したと示すことは難しいが、平成27年に策定した第四次総合計画後期基本計画に合わせ、『子ども笑顔かがやきプラン』という子育てしやすい町をめざす計画を策定している。その中で待機児童対策や、子育てしやすい環境づくり、妊娠期から子育て期まで、町の子育て部門、健康部門が協働して様々な手厚い施策を展開していることが上昇につながっていると考えている。(事務局)
- ◎ 直近5年間の合計特殊出生率の推移を教えてほしい。(委員)

- 平成 25 年が 1.18、平成 26 年が 1.09、平成 27 年が 1.13、平成 28 年が 1.36、平成 29 年が 1.53、直近 5 年間の平均は 1.26 である。(事務局)
- ◎ 資料 1－4 について、柱と小項目の並び順に規則はあるのか。(委員)
- 第四次総合計画との比較がし易くなるよう並べたので、特別意識はしていない。(事務局)
- ◎ どれも重要なことであると思うが、資料 1－5 について、意見の数が多いものは町民の意識が高い分野であり、少ないものはあまり意識が高くないように見える。順位付けが必要とは言わないが、資料 1－4 の並び順に反映できればいいと考える。(委員)
- 意見の数が多い傾向にある柱 2 については、町民の皆さんというよりは、行政がやるべきことであると感じている。いただいた意見を加味し、検討していく。(事務局)
- ◎ ワークショップで出された「風通しのよい町」というフレーズは他の市町村でもよく見かけるが、実際に実行するのはかなり難しいと考える。(会長)
- ◎ 資料 1－5 の 29 ページの「柱 5 賑わいと元気・活力あるまちづくり」の中に「1 安全・便利に移動できる交通基盤の推進」とあるが、具体的にはどのようなことを指しているのか。人の動きを便利にするか、インフラを便利にするのか。(会長)
- 内容としては、道路というハード面の整備保全をしていくという点が 1 点、もう 1 点として、地域の公共交通として町民の足となる部分の利便性を向上させるという点の 2 点を考えている。町民の皆さんから意見として挙がっている道路の保全や、免許返納後の移動手段についての不便さを解消する必要があると考える。今後人口減少が進行すると路線バスが地域から撤退する恐れもあるため、代替手段として西小磯の乗合タクシーのような新たな交通手段について、今後を見据えた中で検討し、導入できるものは導入する必要があると考えている。これらを包括した内容で、小項目についてまとめていきたいと考えている。(事務局)
- ◎ 資料 1－5 について、買い物、交通が不便とあるが、ハード面の整備ではなく、買い物であれば配達サービスに対する支援などソフト面での対応をした方が良くないと考える。(委員)
- 資料 1－5 の 29 ページの部分と 31 ページの商工業の部分にも絡んでくる問題であると考えている。計画期間中に危惧している問題として、団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年問題があり、また、その後の人口構成の変化についても第五次総合計画では考えていく必要があると考えている。現時点でどうするか具体的に

は申し上げられないが、限られた予算をどのように配分していくかを最終的には町が判断しなければならない、道路のみではなく、宅配サービスのようなものについても、検討する必要がある項目であると考えている。(事務局)

- ◎ 資料1-5の31ページの「柱5 賑わいと元気・活力あるまちづくり」の「2 地域の特性を生かした産業の活性化」の内容については、アンケート調査や、意見が多い項目であり、意見の中でも様々なアイデアが記載されている。これらについて、政策的に活用する検討をしてもよいのではないかと考える。(委員)
- 町として、様々な意見を聞くことは重要であると考えている。町をよくしたいという意識を持った方々が町内に多くいると感じているので、基本構想の後の基本計画の策定時においても、今回意見いただいた方からも別の視点で実現可能か深掘りしつつ、再度意見を聞いていければと考えている。(事務局)
  
- ◎ 交通網の問題として、国府地区の山側のバスは二宮駅に行ってしまう。日常生活で利用している大磯駅の周辺には商業施設が少なく、県道71号秦野二宮線沿いには大きな商業施設があるが、県道63号相模原大磯線沿いには大きな商業施設はほとんどない。国府地区の町民は二宮方面に買い物に行ってしまう。今までの町の方針が自然環境の保護、歴史文化による観光推進の方向に偏っていたと考える。(委員)
- 町は買い物が不便であるという意見がアンケートの中でも多いが、町内に新たに大型商業施設を建設するのは現実的ではないと考える。アンケートの中でも自然と歴史が素晴らしいところであるという意見も多くあり、国府地区の方については、二宮地区に抜けやすい交通網の整備、大磯地区の方については、大磯駅や高麗地区のスーパーに行きやすいような交通体系の構築等を考えていく必要があると考える。大磯町は自然環境、歴史の町という部分をアピールし、近隣自治体との違いをアピールすることで、人口を維持していきたいと考えている。町内の交通については、高齢化等の問題があるため、担当課としても考えていかねばならないという認識を持っており、町全体として総合計画に位置付けた中で、考えていく必要があると認識している。(事務局)

## (2) 大磯町第四次総合計画後期基本計画 + 大磯町人口ビジョン・総合戦略実施計画書【令和2年度】について

資料2に基づき事務局から説明を行い、次のとおり質疑応答が行われた。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染予防及び拡大防止を図るため、審議時間を短縮することとし、別途委員からの意見を受け付け、次回会議において報告すること

とした。

- ◎ 今回は変則で通常3か年の計画となるものが、第四次総合計画後期基本計画の最終年度になるため、1か年の計画となっている。新規性のある計画が載っているというわけではないのか。(会長)
- 基本的にこれまで進めてきた総合計画の取組みについて、最終年度となる来年度に向けて、継続して実施していくこととしている。これに加えて、順次進めている中で来年度実施しなければならない事業を精査し、新規事業として位置付け、実施計画書としてまとめている。このため、これまでの取組みから大きく変わったものではない。(事務局)

### 3. その他

事務局から次回の総合計画審議会について事務連絡を行った。

以上